# 町医者だより

平成23年07月8月合併号

＜発行・お問合せ先＞
おおわだ内科呼吸器科
院長　大和田　明彦
市川市南八幡４－７－１３
ｼｬﾝﾎﾟｰﾙ本八幡２階
ＪＲ本八幡駅南口(シャポー改札口)
１分ミスタードーナツ並び
ヘアサロンAsh向かいビル2階
電話０４７-３７９-６６６１

おおわだ
内　科
呼吸器科

## 喘息治療に及ぼすプラセボ効果

喘息の治療は単純です。吸入ステロイドないし長時間作動型気管支拡張剤（ＬＡＢＡ）との合剤の吸入を続けていただければ良いからです。しかしながら、患者さんの治療に対する応答（自覚症状の改善の有無）が医者を惑わすことがあります。今回は毎度おなじみの米国のニューイングランド医学雑誌7月14日号に掲載された興味深い報告を紹介いたします。

### プラセボ効果とは

プラセボ（プラシーボとも言います）とは日本では偽薬と訳されていることが多いのですが、味も形も本物の薬そっくりな薬剤を投与すると、本物の薬と同じような薬理効果が出現することが以前から知られていています。このような有益な効果をプラセボ効果と呼んでいます。ですから日本での「偽薬」という訳は、人をだましたといった印象を与えかねず誤解を生じかねません。実際のところプラシボ効果は認知行動療法などの心理療法に応用されています。

### 喘息患者さんに気管支拡張剤、プラセボ吸入、偽ハリによる鍼治療を実施すると・・・

今回の報告では同じ患者さんに日を開けて「短時間作用気管支拡張剤（メプチンやサルタノール）吸入」、「プラセボ吸入」、「偽ハリによる鍼治療」、「全く何もしない」の四つの「治療」のどれかを無作為に3回行い、呼吸機能検査の改善と自覚症状の改善を検討したものです。呼吸機能検査では、１番大切な指標であります1秒量（１秒間に呼出する息の量）の改善率を見ています。１秒量の改善率は気管支拡張剤を吸入したときに当然高く、平均で２０．１％改善しました。一方、味も匂いも同じで気管支拡張剤を含まない「プラセボ吸入」と実際には鍼を刺さない「偽ハリによる鍼治療」、さらには「全く何もしない」治療群ではでは当然の事ですが気管支拡張剤吸入治療より低い７％程度しか改善が得られません。それでは、自覚症状の改善はどうだったでしょうか？　「全く何もしない」では患者さんの２１％が自覚症状の改善を感じていましたが、「プラセボ吸入」では４５％、「偽ハリによる鍼治療」でも４６％の方が症状の改善を自覚しており「気管支拡張剤吸入」による改善率５０％に迫る勢いでした。この「プラセボ吸入」と「偽ハリによる鍼治療」による自覚症状の改善が、すなわちプラセボ効果です。この報告からわかる大事なことは、喘息の治療において、自覚症状が改善が必ずしも呼吸機能の改善を意味していないことです。さらに報告では、喘息治療薬の治験を行う際にはプラセボ群だけではなく「全く何もしない」群とも比較をしなくてはいけないと提言しています。

### ノセボ（ノーシーボ）効果

今回の論文には触れていませんが、偽薬の投与で本物の薬剤に見られる副作用などマイナスの効果が表れることがあります。これをノセボ効果と言います。喘息が考えられる、とお話しすると、その診断をお気に召さない患者さんがいらっしゃいます。そのような患者さんに吸入ステロイド治療を始めるとなかなか症状が改善しないことがあります。治療効果が乏しい原因の中に「自分は喘息ではないから吸入ステロイド治療は効くはずがない」というノセボ効果が少なからず存在しているのかもしれません。プラセボ効果（もしかしたらノセボ効果も）が存在しているために喘息の治療効果には呼吸機能検査が必須です。